

## 地域との共生

ブリヂストングループは、150か国以上で事業を展開し、世界中の人々と共に持続的な社会価値・顧客価値の共創に努めています。当社グループは各地域で抱える課題に対し、パートナー、お客様、従業員と共に、解決に向けた様々な取り組みを進めています。これらの長期的な取り組みに加え、自然災害の発生時など、緊急性の高い支援が必要な場合は、迅速に地域社会を支援する活動を行っています。

地域の人々と共に価値を生み出しながら信頼関係を築くことは、当社グループの「サステナビリティフレームワーク」[☞](#)\*の重要な構成要素として位置づけられています。目的や地域のニーズに応じた社会貢献活動 [☞](#)を通じて、「Empowerment: すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくり」など、

「Bridgestone E8 Commitment」の「E」で始まる8つの価値創出と拡大に取り組んでいます。次のような取り組みを進めることで、より安心・安全で、健やかな地域づくりを推進し、インクルーシブで開かれた教育を将来世代に提供していきます。また、当社グループで社会貢献活動に取り組むワーキンググループは、当社グループによる社会貢献活動のポジティブなインパクトを拡大するため、2022年に「グローバル社会貢献活動ガイドライン」を発行しました。

\* サステナブルなソリューションカンパニーへと進化していくために、当社グループのサステナビリティの捉え方を体系化したもの

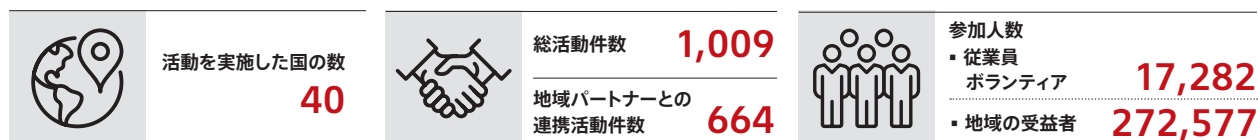
[☞](#) サステナビリティフレームワーク

[www.bridgestone.co.jp/csr/approach/framework/index.html](http://www.bridgestone.co.jp/csr/approach/framework/index.html)

[☞](#) 目的や地域のニーズに応じた社会貢献活動

[www.bridgestone.co.jp/csr/social/community/index.html](http://www.bridgestone.co.jp/csr/social/community/index.html)

### 2022年 社会貢献活動実績



### 交通安全に関する取り組み

世界では毎年135万人以上が交通事故で命を落としている\*1とされ、交通安全はグローバル共通の課題と認識されています。当社グループも、タイヤメーカーとして安心・安全な移動やレジリエントな社会基盤を支えていくために、交通安全を重要な課題と捉えています。

安心・安全で快適な移動のためにはタイヤの適切なメンテナンスが重要となることから、より安心で心地よいモビリティライフを支える「Ease」の一環として、お客様や地域の方々にタイヤの安全点検などの安全啓発活動を実施しています。また、「Empowerment」につながる活動として、次世代に向けた交通安全や地域社会における生活の質の向上の重要性について啓発しています。さらには、従業員向けの交通安全教育も充実させ、バリューチェーン全体で安全への意識を高めることで、商品やサービスだけでなく、日々の業務を通じて交通安全に貢献していきます。

当社グループの交通安全タスクフォースは企業や開発・政府機関、市民社会組織等を繋いで交通安全の活動を推進する国際NPOであるGlobal Road Safety Partnership (GRSP)と協力し、従来の各地域での活動を、グローバルで相乗効果を生み出すプログラムに発展させた包括的な枠組み「ブリヂストン交通安全プログラム(BRSP)」を構築しました。同プログラムは、

2023年より試験的運用を開始しています。BRSPの実行にあたっては、GRSPとも連携して社内向けガイドである「ブリヂストン交通安全プログラムプレイブック」を作成し、グローバルの従業員間で共有しています。2022年は、17か国で47件\*2の交通安全に関する取り組み(うち38件は外部パートナーと連携\*3、1,036人の従業員ボランティアが参加\*4)を96,169人の地域の方々に対して実施\*5しました。

\*1 出典:世界保健機関「Global status report on road safety 2018」

\*2 活動数の集計方法は国や地域によって異なります。

\*3 外部パートナーとの連携集計方法は国や地域によって異なります。

\*4 従業員ボランティア数は延べ人数であり、一部活動では推計値を含みます。

\*5 活動による直接裨益人数を集計し、集計方法は国や地域によって異なり、確認できた活動のみを対象としています。



**Dave Cliff**

ONZM MSTJ,  
CEO, Global Road Safety  
Partnership (GRSP)\*

2022年の国連宣言では、民間セクターのリーダーに対し、世界の交通安全向上に向けたさらなる協力を要請しました。同宣言では特に、安全な自動車の購入、ドライバーと車両

## 地域との共生

の安全性、資金提供、バリューチェーンへの「セーフシステム」の原則の適用など、民間セクターが大きな役割を果たせる領域に重きを置いています。持続可能な開発目標(SDGs)のターゲット3.6は、2030年末までに交通事故による死傷者を半減させることを掲げており、そのためにはあらゆる領域での協調的な取り組みが必要です。プリチストンは創業以来、交通安全を提唱し、また行動でもそれを示してきたことで知られていますが、この宣言を支持することで、同社の交通安全へのコミットメントが一層強化されました。GRSPの創設理念は、パートナーシップを根底に置いています。これには、民間セクター、市民社会、政府のそれぞれの声を集めて、根拠に基づく交通安全政策策定や取り組みを企画し、実行することが含まれます。2020年以来、GRSPはこのパートナーシップモデルに従ってプリチストンと力を合わせ、交通安全の考え方と行動の両面でリーダーシップを発揮してきました。

私たちGRSPは、このパートナーシップを発展させながら、プリチストンの交通安全への熱意とイノベーションをサポートしていきます。この先も改善を続けるためには、インパクトを創出する持続可能なプログラムや方針を生み出していく必要があります。従業員の熱意を活かしてバリューチェーン全体で交通安全に取り組むことで、プリチストンが事業を展開する地域や、それ以外の地域も含む世界における交通安全の推進に大きく貢献していくことを期待しています。

\* GRSP: Global Road Safety Partnership. 国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)により主催されています。

BSAMが2005年に開始した安全運転の啓発活動「Think Before You Drive」は、教育プログラムや教材を通して交通安全の大切さをドライバーに再認識してもらうことを目指しています。交通事故や危険運転を減らすことを目的に、大学や政府機関と連携し、子どもや学生、ドライバーの皆様を対象にこの教育プログラムを実施しています。2015年以降、メキシコ、コスタリカ、コロンビア、エクアドルで開催し、参加者は72,000人以上にのぼります。

「Think Before You Drive - Kids」では、6~12歳の子どもを対象に交通安全のヒントを伝え、道路を安全に通行するために必要な行動に関する意識啓発に取り組んでいます。2022年は4校で開催し、1,500人以上の子どもたちが参加しました。オーストラリアとニュージーランドでは、学生向けの交通安全教育機会を提供する地域イニシアチブである、RYDAと連携した若者向けの交通安全教室を実施しています。2022年は41,250人以上の学生に対し、道路上でより安全な行動が取

れるよう、運転者及び同乗者としてのマナーを含めた啓発活動を実施しました。



交通安全教室



### Terry Birss

CEO & Managing Director  
Road Safety Education Limited -  
provider of the RYDA program

私たちRYDAは、交通安全に関する共通の目標である、道路上の命を守り、交通被害者を一人でも減らすために、皆さんと一緒に取り組んでいます。RYDAは、次世代に対して交通安全に対する知識やスキルの習得を目的とし21年前に設立され、これまでに70万人以上の生徒が参加しています。プリチストンの持続的な支援により、RYDAは、命がかげがえのないものであるというメッセージを学生に伝え、交通安全意識を高めることに繋がっています。私たちは、プリチストンが、オーストラリア・ニュージーランドを含む世界各地で交通安全教育に貢献する重要なパートナーであると考え、その支援に感謝しています。

### 》 教育に関する取り組み

当社グループは、人々の生活の質の向上と職能の開発につながる教育が重要であると考え、事業を展開する地域においてインクルーシブで開かれた教育を支援しています。特に初等教育や技術・職業訓練に重点を置き、タイヤの製造・販売で培った強みを活かし、次世代の自動車整備のプロフェッショナルを育成するための様々な研修プログラムを提供しています。2022年は、22か国で182件<sup>\*1</sup>の教育に関する取組み(うち163件は外部パートナーと連携<sup>\*2</sup>、18,484人の従業員ボランティアが参加<sup>\*3</sup>)を52,351人の地域の方々に対して実施<sup>\*4</sup>しました。日本では、モノづくりに関わる環境への取り組みを通じて、ビジ

ネスと環境を両立させることの難しさや大切さを学ぶことができる「環境ものづくり教室」を開催しています。また、グローバル企業である当社グループの従業員と共に、文化や習慣の違う人とのコミュニケーションの難しさや大切さを体験しながら学ぶ「グローバルコミュニケーション教室」も行っています。2022年は、「環境ものづくり教室」を27回、「グローバルコミュニケーション教室」を10回開催し、合計3,261人の小中学生が参加しました。

BSAMは、全米の自動車整備技術者不足に対応するため、次世代の自動車整備技術に関する様々な教育を行っています。2022年に、テネシー州ナッシュビルとオハイオ州アクロンの2か所の自動車整備技術訓練校で、両校あわせて150名上の学生が支援プログラムを受講し、ナッシュビルのMaplewood High Schoolでは48名以上の卒業生が自動車業界への就職を、アクロンのEast Community Learning Centerでは、50%以上の学生が卒業前に技能認定を取得しました。



自動車整備技術教育

### 》健康に関する取り組み

世界保健機関(WHO)は、所得水準別死因分析に基づき、各国・地域ニーズに応じた健康改善に取り組むことが重要であると指摘しています。

当社グループは、地域住民の健康状態を改善し、より健康的なライフスタイルを持続的な文化として根付かせることで地域社会に貢献します。2022年は、24か国で238件<sup>\*1</sup>の健康に関する取り組み(うち201件は外部パートナーと連携<sup>\*2</sup>、1,311人の従業員ボランティアが参加<sup>\*3</sup>)を86,885人の地域の方々に対して実施<sup>\*4</sup>しました。



健康促進チャリティイベント

BSEMIAは、運動に関する情報を「B-Olympic」というデジタルプラットフォームを通じて定期的に発信し、従業員の健康的な生活を促しています。従業員が合同でウォーキング、ランニング、サイクリングなどに取り組み、2022年は200万キロメートルの距離を達成し、距離に応じた金額である約135,000ユーロを15の地域のがん慈善団体に寄付しました。

### 》防災や救助に関する取り組み

ブリヂストングループは、自然災害により被災された地域の方々への支援を使命の一つと考え、被災状況や被災地のニーズに応じて、様々な復興支援を行うとともに、被災された方々や地域の一日も早い復興を心より願っています。

2022年は、17か国で36件<sup>\*1</sup>の社会貢献活動(うち19件は外部パートナーと連携<sup>\*2</sup>、302人の従業員ボランティアが参加<sup>\*3</sup>)を827人の地域の方々に対して実施<sup>\*4</sup>しました。

インドネシアのカラワン地区やブカシ地区では、洪水が多発する地域のため、ブリヂストンタイヤインドネシア(BSIN)の水害救助チームによる訓練は重要な役割を果たしています。2022年1月14日、マグニチュード6.6の地震がインドネシアのバンデグララン県を襲い、約15の校舎、14の医療センター、1,699の家屋に被害が及びました。さらに3月の豪雨が引き起こした洪水により、バンデグラランでの復旧作業が難航し、多くの家庭が影響を受けました。BSINは、捜索・救助隊を発動させ、総務・CSRチームと共に、100食分の食料、ボート2隻、船外機2台、安全ジャケットのほか、避難ルートや避難所を示す表示板60枚を地方防災局(BPBD)に提供し、地域の方々への支援を行いました。食料品は、政府などによる支援がまだ届いていない被災者の方々に提供されました。

\*1 活動数の集計方法は国や地域によって異なります。

\*2 外部パートナーとの連携集計方法は国や地域によって異なります。

\*3 従業員ボランティア数は延べ人数であり、一部活動では推計値を含みます。

\*4 活動による直接裨益人数を集計。集計方法は国や地域によって異なり、確認できた活動のみを対象としています。



水難救助隊